

令和元年 8 月の解説（週間天気予報）

【8 月の天候状況】

上旬は、北日本から西日本にかけて、高気圧に覆われて晴れて厳しい暑さの日が多くなりました。平均気温は、東日本で平年差+2.6℃、西日本で平年差+1.5℃となり、1961 年の統計開始以来、8 月上旬として第 2 位の高温となりました。6 日には、台風第 8 号が宮崎県に上陸した影響で、西日本を中心に広い範囲で雨が降り、大荒れとなった所もありました。また、北海道地方は、8 日から 9 日にかけて台風第 8 号から変わった低気圧の影響で、大雨となった所がありました。沖縄・奄美では、2 日頃は上空の寒気の影響で曇りや雨となりましたが、その後は高気圧に覆われて晴れの日が続きました。7 日から 10 日にかけては、台風第 9 号や湿った空気の影響で曇りや雨となり、8 日を中心に大荒れとなった所がありました。

中旬は、北日本は低気圧や前線の影響で、天気は数日の周期で変わりました。東日本と西日本では、13 日頃までは上旬に引き続き、高気圧に覆われて晴れて厳しい暑さの日が続きました。14 日から 16 日にかけては、台風第 10 号の影響で広い範囲で曇りや雨となり、四国地方や近畿太平洋側を中心に大雨となりました。また、フェーン現象の影響で、日本海側を中心に気温が上がり、日最高気温が 40℃を超える厳しい暑さとなった所がありました。15 日には、日最低気温も新潟県を中心に記録的に高くなった地点があり、糸魚川(新潟県)では 31.3℃と全国の日最低気温の高い記録を更新しました。その後は、高気圧に覆われた日もありましたが、湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。沖縄・奄美は、高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、台風や湿った空気の影響を受ける日もありました。

下旬は、北日本から西日本にかけては低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなりました。特に、西日本では、日照時間が平年よりもかなり少なくなりました。23 日頃にかけては、オホーツク海高気圧の影響で北日本では気温が平年を下回る所が多くありました。また、24 日から 26 日は前線が本州の南まで南下したため、北日本から西日本にかけては気温が平年を下回る所が多くありました。27 日以降は、前線が日本海沿岸へ北上したため、太平洋高気圧縁辺の湿った空気が入りやすかった西日本を中心に大雨となった所がありました。特に 28 日は、対馬海峡付近の前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、九州北部地方では記録的な大雨となり、佐賀県、福岡県、長崎県に大雨特別警報が発表されました。沖縄・奄美では、台風第 11 号や湿った空気の影響を受ける日もありましたが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

【8 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均)は、例年値^(注)よりも 2 ポイント高い 68%でした。地方別の適中率では、北海道、東北、東海、北陸、近畿、四国の各地方で例年値を上回りました。

最高気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値と同じ 2.3℃で、東北、東海、北陸、近畿の各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値と同じ 1.6℃で、東北、関東甲信、東海、中国、沖縄の各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10 月の週間天気予報の利用にあたって】

秋から冬にかけて日照時間が次第に短くなり、気温も急激に下がっていきます。10 月は晴れる日が多く、行楽の機会も増えますが、気温の変化が大きい時期でもありますので、週間天気予報を利用する際には天気だけでなく、気温にも注意して下さい。